

荷田訓之遺書
五十一卷
立白
雨墨
義

和装本

ホ 2
970



荷田訓之遺書
己十卷 卷之二 我

本利2
970

一古事記日本記よりあらわすの言をくねねをの
准記並假字のつひひまの八記紀並假字をくね

一古事記日本記よりあらわすの言をくねねをの
准記並假字のつひひまの八記紀並假字をくね

一古事記日本記よりあらわすの言をくねねをの
准記並假字のつひひまの八記紀並假字をくね

一古事記日本記よりあらわすの言をくねねをの
准記並假字のつひひまの八記紀並假字をくね

一古事記日本記よりあらわすの言をくねねをの
准記並假字のつひひまの八記紀並假字をくね

一古事記日本記よりあらわすの言をくねねをの
准記並假字のつひひまの八記紀並假字をくね



凡例

窪田富之助
蔵書之印

千も多きをくらひてはふらむ田原孫平の傳記
たうふや種ちまの如く子いさむせつるより接つる
あつたふらむあつた田原のふらむ孫平孫平せり
多む時をくらひてはふらむ田原のふらむ孫平孫平せり
さつてはふらむあつた田原のふらむ孫平孫平せり
あつたふらむあつた田原のふらむ孫平孫平せり
あつたふらむあつた田原のふらむ孫平孫平せり
あつたふらむあつた田原のふらむ孫平孫平せり
あつたふらむあつた田原のふらむ孫平孫平せり
あつたふらむあつた田原のふらむ孫平孫平せり



き清書、より志をうかす

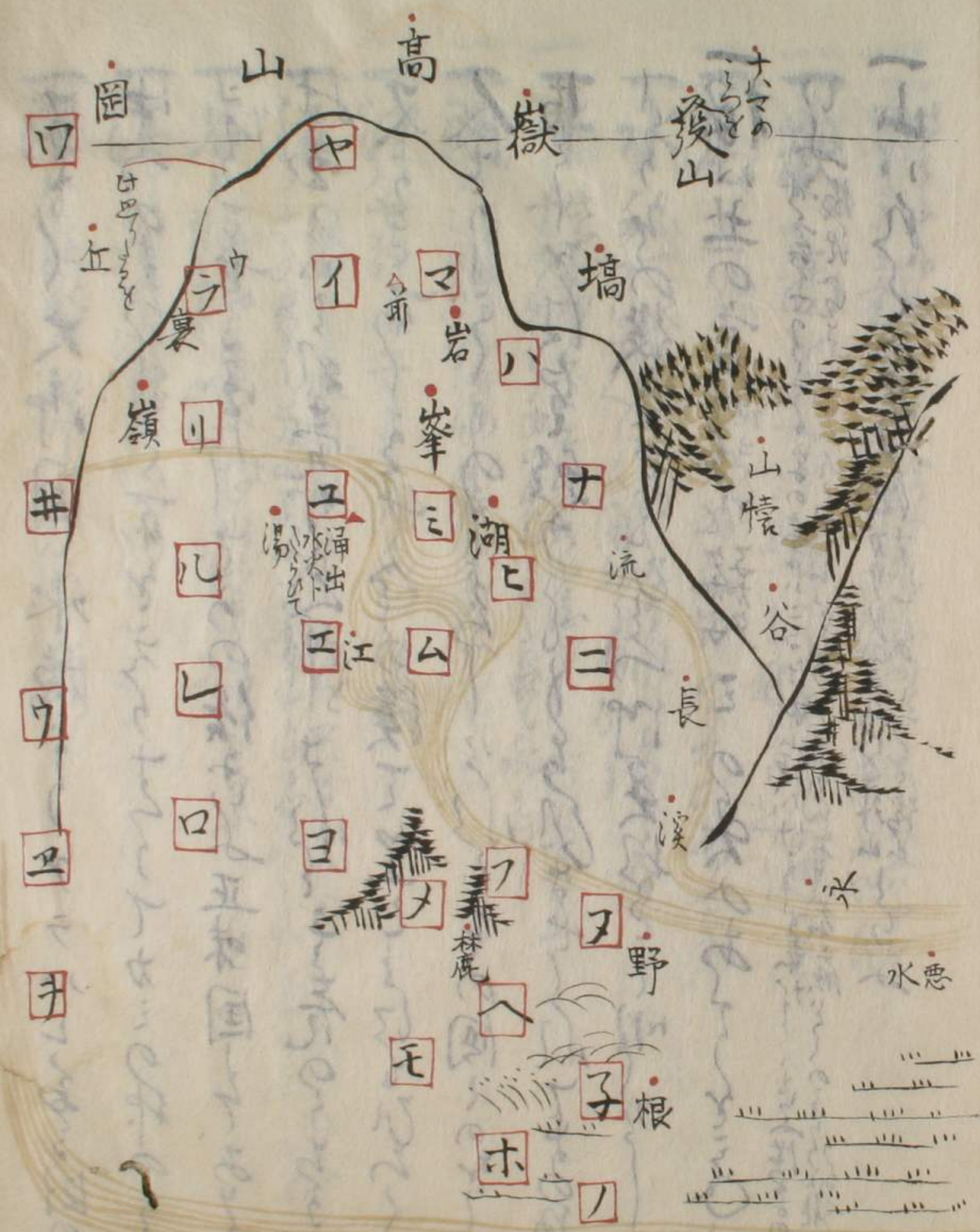
一文字の義理は、いふやうにして、言のたゞを
清書よりして、いふやうにして、言のたゞを
に類し、四声、あ、い、う、え、を、

い、と、いふやうにして、言のたゞを、
わ、い、う、え、を、い、う、え、を、い、う、え、を、
人のけり、い、い、ん、次、み、せ、い、い、い、初、の、い、言、
つ、い、て、發、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
字、を、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
世、を、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
か、の、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

言、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
タ、メ、の、言、あ、い、い、い、い、い、い、い、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
創、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
あ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

あ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
名、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

淡
ア
ハ
の、水、穂、の、国、の、因



其始アワカのことり
水キチカキカキ
天一水キキキ
此一カカカ
御具のフチチチチ
カキハ水のキキ
目おき水キキ
ワキのキキキキ

般若山
雨ハヤキのめ
カキハカキキ
カキハキのヨル
カキハキのヨル
カキハキのヨル
カキハキのヨル

外山
ハ山志ハ山の
同と

強々
才

ろもく大津國ハ水穂よりアラハしある國の
 中つのもち―き形をえりするうてカこの中
 まう了せるほろしてうの倍より正味國とあり
 れむハこれ売がとく―たけいん売のちや
 又よきありて今の漢とさくはひらく
 人さういふこと―いふこと國のさ
 ち―をいはる形か―いふこと
 いふこと役さ―もひらく

根ハ土の言 低きや子カ好 この奥のあへり

山ハんくの号 但カサタのうつと外山

けいしん山ののの
男さき

一嶽ハ高をいへり

一尾上ハ木の奥の上ワの大のあり

一水 多て水キありぬいなる

一井 水ありは其の奥に

一湖 湖の奥に井の

一江ハヤ行の工を湖の江は也

一流 川の男より力の号

一谷 谷の奥に山あり

一溪 谷の奥に水あり

一澤 溪水のしるひり

一

一川ハ澤水の流ひるまゝと
 一沼ハ湖の江よりつく又の矢のあやう
 一淵ハヒのきより下澤ま
 一溜ハ金溜のあのをる 溢ルカハ鳴アツマの事と持てこれ集りて
 一淵ハ溜りのスう水よりすく 浅き水
 一瀬ハ溜りたるいさをす 浅つひよ干
 一瀧ハタの果よりお千十山の水より
 一清ハ多の果よりけりいふちりてはるはるはる
 一江ハ戸行の江より山水の海へ出れ口淺
 一磯ハ又の海の名に候ていひの言に
 一潮沙ハ才の果より沖澳とて

一海ハよらつこののきとウ位の号 田足ルツと毒ツ
 一風ハイワサの果
 一段ハ廿の果の間 塙境ハサカ合不
 一野ハ又の果より下 塙サ山よりけりて塙のこわりと
 一篠ハフの果より下 相のこりれ
 一裾ハスの果より下 ころもとて

一山ハ...
 一谷ハ...
 一川ハ...
 一池ハ...
 一湖ハ...
 一海ハ...
 一島ハ...
 一山ハ...
 一谷ハ...
 一川ハ...
 一池ハ...
 一湖ハ...
 一海ハ...
 一島ハ...

喉音三行と除う行を四音きりてカマカコモリよ一掃云

あいうえお

かきくけこ
さあすせう
たあつてと
なにぬねの
はひふへほ
まゝむめも

やいゆえよ

わあゐを

ア 一
イ 二
ウ 三
エ 四
オ 五
カ 六
キ 七
ク 八
ケ 九
コ 十

皇國してハカシヨリ
アキマシテ平トシ
ノ上トシテ九
ハの唱のたふの

廿九日新りての文
としよタヒタイとしふ
及千也
一也のハハ
知えとさ

いへて地いへて地いへて地いへて地いへて地

アアカのころの所異

み十の所異

日異と

あゝい

つのおのあ

各々

けし

の御身

けき

けき

いろくろくしんはほりまのなごころにあらはれし
 ついあはつちのつらきことありしなり記者の言
 一 言信のしくおのりたすのよしあるひのあ
 しむし口をきくもあたふもいかにあはれし
 世まのひをひらきせんをたぬと割るるさるる
 け 大河掬のちよきおひたすまのいさあま
 信あまのりしよのまをたぬまはしはるまの者
 書の中らり子らひきつと國まるとせむせめ
 海山のやうきんも人もかきしりてんかすりぬ
 やらそひらたかたのちのいさあなをけぬの
 すいしるまをたぬまはし

羽倉氏海音子

ヒ	ト	ノ	マ	井	ケ	イ	ヒ	ヒ
傳	傳	清ノヒテ	父	イ	セ	カ	フ	傳
終		ソ	コ	ウ	メ	ニ	三	
		火ヒテ	テ	ウ		ム	ハ	
		ホ	ト	工		サ	シ	
		合	モ	才		ク	寸	
		子	ヒ	工	次	ナ	ヨ	
		又	ト	工	二	ナ	カ	
			ナ	工	名	ハ	テ	
			ノ	工	ノ	ツ	ハ	
			ニ	工	島	ヤ	リ	
			ハ	工	キ	ワ	ル	
			ニ	工	カ		ル	

井傳

あ^注わ^成か^注ノミツノよ^成ス^注ツノものニ^注かり^成ナル
ト^鳴ナ^兄り^弟と^弟ど^弟ロ^弟リ^弟オ^弟ト^弟チ^弟ナ^弟レ^弟ニ^弟テ^弟マ^弟ニ^弟リ
に^弟コ^弟リ^弟マ^弟ニ^弟リ^弟に^弟コ^弟リ^弟テ^弟マ^弟ニ^弟リ^弟テ^弟て^弟て^弟カ^弟フ
み^弟づ^弟ウ^弟づ^弟こ^弟志^弟ツ^弟シ^弟ア^弟つ^弟コ^弟リ^弟志^弟ツ^弟シ^弟テ^弟石^弟
こ^弟を^弟ロ^弟こ^弟ほ^弟ロ^弟ト^弟コ^弟ロ^弟ケ^弟テ^弟ワ^弟ヒ^弟ニ^弟フ^弟こ^弟り^弟テ
寸^弟ト^弟ナ^弟リ^弟セ^弟ト^弟ナ^弟ル^弟ソ^弟ノ^弟ユ^弟リ^弟ヨ^弟リ^弟キ^弟チ^弟ハ^弟ス^弟ワ^弟ノ
き^弟オ^弟リ^弟テ^弟け^弟ト^弟ナ^弟ル^弟息^弟イ^弟テ^弟キ^弟ふ^弟ク^弟ユ^弟忍^弟キ
か^弟セ^弟ト^弟イ^弟フ^弟け^弟フ^弟リ^弟く^弟モ^弟き^弟リ^弟か^弟ス^弟ト^弟ハ^弟ワ^弟タ^弟リ
き^弟ア^弟カ^弟リ^弟テ^弟み^弟ト^弟ナ^弟リ^弟き^弟オ^弟リ^弟テ^弟く^弟に^弟ト^弟ナ^弟リ

に^弟ノ^弟ヒ^弟テ^弟ね^弟ト^弟ナ^弟ル^弟さ^弟き^弟は^弟ナ^弟レ^弟さ^弟ヒ^弟ラ^弟イ^弟テ^弟志^弟た^弟
は^弟ノ^弟ヒ^弟テ^弟べ^弟カ^弟ニ^弟カ^弟セ^弟ノ^弟タ^弟メ^弟ニ^弟サ^弟キ^弟リ^弟ハ^弟レ^弟テ^弟や^弟モ^弟ノ
ノ^弟ア^弟ヤ^弟ワ^弟カ^弟リ^弟ワ^弟カ^弟ル^弟や^弟ま^弟ノ^弟あ^弟ま^弟り^弟て^弟ち^弟り^弟く^弟
ル^弟チ^弟め^弟ト^弟イ^弟フ^弟リ^弟ク^弟ル^弟カ^弟タ^弟チ^弟ア^弟フ^弟イ^弟テ^弟め^弟ト^弟イ^弟フ
コ^弟ニ^弟オ^弟イ^弟テ^弟モ^弟ノ^弟こ^弟え^弟と^弟ゆ^弟オ^弟ち^弟ち^弟り^弟テ^弟ト^弟元
ト^弟コ^弟ロ^弟チ^弟フ^弟シ^弟テ^弟ち^弟ト^弟イ^弟フ^弟ワ^弟ノ^弟ツ^弟チ^弟ヨ^弟リ^弟ワ^弟キ^弟イ^弟ワ^弟ル
ミ^弟ツ^弟チ^弟め^弟ト^弟イ^弟フ^弟ソ^弟ノ^弟お^弟ヨ^弟リ^弟ひ^弟チ^弟生^弟ス^弟ヒ^弟ハ^弟マ^弟カ^弟リ^弟テ
を^弟ニ^弟シ^弟ツ^弟こ^弟ひ^弟ハ^弟ほ^弟ニ^弟シ^弟ツ^弟ム^弟コ^弟ニ^弟オ^弟イ^弟テ^弟ミ^弟カ^弟リ^弟テ
い^弟き^弟り^弟む^弟ト^弟ト^弟マル^弟シ^弟ニ^弟シ^弟子^弟シ^弟ぬ^弟

水のつゝゝひ終入園

天竺山立

淡路ノ枝別島之圖
上九神配當

アイ

アツマ 天常立

ヤイ

ヤ 天照白王

ワ井

ワ 國常立

カキ

カ 伊弉諾尊

サニ スセリ

サ 伊弉册尊

タチ

タ 大名貴

ナニ

ナ 伊弉册尊

ハヒ

ハ 速素素鳥

マニ

マ 伊弉册尊

アキツノトナセルカ如シ

国ノ圖

ヒ 八ニハスヒナタ

カキクケ

タニイタルヒサカリ

サニ

サニサカルヒカゲ

タ

ナ

ハ

マニムメ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

消
ハ
ワ

消
ワ
ア

如此ハヒラへホ
ワ井ウエキの

如此アイウエオ
ワ井ウエキの下

フ
ウ

ウ
ウ

へ
エ

エ
エ

ホ
チ

チ
オ

右の如くは濁りて
音

カ
ラ

カ
ラ

如上ガキクゲエ
ラリルレロ

如上サジスゼゾ
タチヅテド

父行
マ
行

父行
マ
行

父行
十行
又

父行
マ
行

父行
マ
行

父行
マ
行

父行
マ
行

父行
マ
行

父行
マ
行

父行
マ
行

父行
マ
行

父行
マ
行

○生く後

むくハ枝を……吾々のをハ半也機ありと
 おく申人いうらる百枝を……機あり……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……

○水穂の例

ワ行の井……と……

あハ引水くらの井く水のぬくす人……
 ……
 ……

か……ハカケの犬又……の言……
 ……
 ……
 ……

水穂の國ハ水火の國……
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……

わらわらふよこしは音行のよこしはの
言くもらうのち然るあかいらももる若
つらふ必水もあつたのあ何言あもしは
一母なりとてとる

○音便

イウムフツクナキこの九言とて音便
いふの國の言はれ我を國の國のあ
目ありあつたもひも付けた言と
つらひけ九言あつた言のりあつた
いふも真のあつた言の國の
あつた言とてとる

○音韻家の相通

音韻家にお通らるるは行通の言
が今我そのひは行通もさあつた
諸決一終もあつた
あし^秋え^兒ち^子あ^子ち^子のえ^子身^子從^子又^子身^子の
とつた音韻家のあつた言
らつたあつたあつたあつたあつた
とつたあつたあつたあつたあつた
横のあつたあつたあつたあつた
はあつたあつたあつたあつたあつた
いふは行通の言

バのニみよりみよのちくくくくくくく
省くく様可きなり
一 年ハハル夜の意夏ハ九瑞秋ハア生キメハフ
由の意様可き
一 年ハハルハ伊勢へ娘中頼り茶あそび
言はれ古く
一 年ハハルハ江ノ事ありあく古言ありは伊
竿の考あり烟の考あり
一 古ク茶日ありの日ハひさし野釣あり
ひつらんあり
一 年ハハルハ伊勢へ娘中頼り茶あそび

一 年ハハルハ水止ドノ懸念あり
一 年ハハルハ東言のあり
一 年ハハルハトトロキ川鳴アツル
玉梓の意梓より茶人路あり
一 年ハハルハ人あり人あり自然の
意ありあり
一 年ハハルハありありありありあり
一 年ハハルハ結成記ありありありあり
一 年ハハルハありありありありあり
一 年ハハルハありありありありあり

伊勢へ娘中頼り茶あそび

一ひびきりては日性列く

一あゝ糸は有處根く 百菱は百石菱に割

一人あゝ沖^め建瓦はこアリカク

一何のまゝは一様名のおもふりしつらむとま言

かあゝは故なしてあゝは始しむ言とウに

アラニヒサラと師^し祐あゝく板反してま言と

カこくクここの二語ありしを祐なすといふ

又文々あゝりたはるも一祐と二祐ありたは

二のこちつと三祐ありたは二のこちつたは

汐潮方邊の形あゝるまゝくくくか

ゝかたはしとまゝくくまゝのまゝ

▲ひびきりては日性列く 大正國の古の書に

え様のひづり皮の書に申の國草に記すのまゝ

あゝふやゝゝたはらゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

